

実りの秋となりました。いかがお過ごしでしょうか。  
甲南大学人間科学研究所の活動も、ますます  
充実してきました。研究所では、テーマに沿って  
シンポジウム・研究会の開催、叢書の出版を行うほか  
さまざまな活動に取り組んでいます。  
ニュースレター第13号では、近年手がけてきた  
アンケート調査・インタビュー調査についてお伝えします。  
テーマは「戦争のトラウマ」と「子育て」です。





甲南大学人間科学研究所の7つの研究テーマのひとつが「トラウマ概念の再吟味」です。「トラウマ」は、個人の心への暴力的作用から、社会全体が受ける傷まで、幅広い現象を指して使われる言葉ですが、安易に使われる傾向も否めません。そこでこの言葉の核心を再吟味し、有効なトラウマ臨床のあり方を探ろうと、研究を進めてきました。

これまでの心理学的あるいは精神医学的な戦争トラウマの研究を振り返ってみると、戦争中に戦闘や被曝といった特殊な経験をした人たちに焦点を当てたものがほとんどであることに気付かされます。しかし、戦争の体験とは、兵士として戦場に赴いた人たちだけに、あるいは原爆のような特殊かつ強烈な体験に晒された人たちだけにとって、「トラウマ」となるものなのでしょうか。一市民として、あるいは子ども時代に、戦争を体験するということもまたその人の人生全体、さらにはその人の家族にまで計り知れない影響を与えるものではないのでしょうか。私たちは心理療法の経験からこのような問題意識を抱くようになりました。

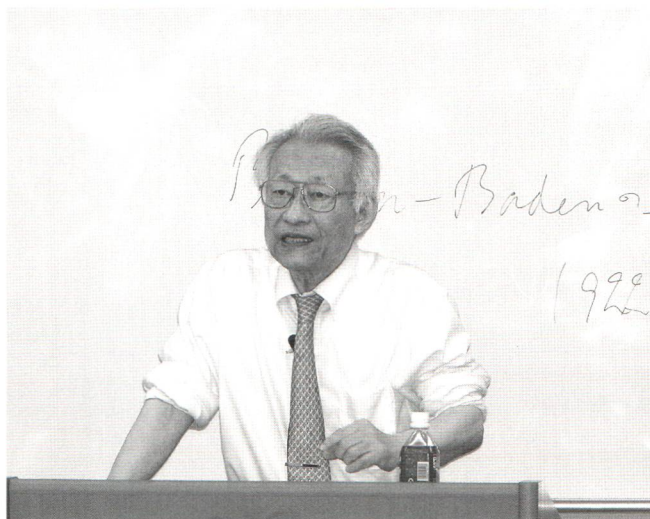
私たちは兵庫県こころのケアセンターと共同し、こうした子ども時代の体験の影響を、アンケート調査およびインタビュー調査を通じて量的・質的に探究しています。親元を離れて疎開をした体験、父親が出征あるいは戦死した体験、親しい友人・親族を喪った経験、生まれ育った我が家を焼き出された経験。多くの方が、このような深い喪失体験をしています。一方で、自身が爆撃の被害にあう、あるいは近親者や友人の死を目撃するといったトラウマ体験も多くの方が経験しています。私たちはこの「喪失体験」と「トラウマ体験」を戦争のトラウマの重要な要素であると考えています。

調査に先立つ5月11日には、当研究所の客員研究員であり、前兵庫県こころのケアセンター長の中井久夫氏をお招きし、公開研究会「私が構想する戦争研究へのアプローチ」を開催しました。中井氏は統合失調症の治療論・寛解論に関する研究・臨床で著名な精神医学者ですが、とくに近年、さまざまな場面で戦争の問題について論じてこられました。戦争の体験は個別的なものであるにもかかわらず、「苦しかったのは自分だけではない」と感じられてしまうため語る事が難しい、と中井氏は指摘します。性被害や虐待によって生じるトラウマと同じように、戦争によって生じるトラウマも語る事が難しく未消化なまま残り続け、それゆえに心身に深刻な影響を及ぼすものであると考えられるのです。

この調査研究は、来年からの新規研究プロジェクトにおいてさらに本格化する予定です。そして、ドイツにて同様のテーマで研究を進めている研究チームと連携し、国際比較を行うことも計画しています。

\*研究所ではこの調査に協力して下さる方を探しています。対象は昭和7年~20年生まれの方です。お知り合いで調査にご協力いただける方がいらっしゃいましたら、電話、FAX、Eメールのいずれかでお知らせください。

## 子ども時代の戦争記憶に関する調査研究



公開研究会で語る中井久夫氏（2007年5月11日）

### 中心メンバー：

森 茂起

(甲南大学文学部/臨床心理学)

加藤 寛

(兵庫県こころのケアセンター/精神医学)

兼子 一

(近畿福祉大学/社会学)

# 子育て研究会



研究会の様子（2007年11月13日）

## 中心メンバー：

高石 恭子

（甲南大学文学部・学生相談室／臨床心理学・学生相談）

穂苅 千恵

（甲南大学文学部／臨床心理学）

中里 英樹

（甲南大学文学部／家族社会学・家族史・歴史人口学）

新道 賢一

（甲南大学心理臨床カウンセリングルーム／臨床心理学）

甲南大学人間科学研究所（研究所設立前は、学術フロンティア研究室）では、臨床心理分野を中心とする教員、相談員、大学院生、10名ほどのメンバーで、定期的な子育て研究会を開いてきました。この研究会は、昨年度公開シンポジウムを行ったテーマ「育てることの困難」の源流であり、来年度以降の新規事業においても発展・継続させていく予定です。これまであまり広く知られてこなかったこの活動について、概要をご紹介します。

子育て研究会は1999年、本学の人文科学研究科とカウンセリングセンターが文部省（現文部科学省）学術フロンティア推進事業に採択されたのを機に、京阪神で大規模な親の意識調査をするという目的で立ち上げられました。代表の松尾恒子氏（当時文学部教授・現名誉教授）を中心に、まだ竣工して間もない甲南大学18号館内の学生相談室で、作業机を囲んで、ときには毎週のように集い、お茶を飲み、議論していました。当時のメンバーの最大の関心は、「子育てのストレスから、虐待へと“一線”を越えさせる要因は何か」というものでした。そしてそれらを明らかにすべく、周産期のケアや母子支援のあり方、母親・父親の子育て意識や、祖母の孫育ての意識に至るまで、3度にわたって調査研究を行い、その結果、母子関係以前に、母親がどれだけ周囲の大人や社会に心理的に支えられているかが、子育てに大きな影響を及ぼすことがわかってきました。

その後当研究所が設立され、学術フロンティア推進事業に再度採択されるという流れの中で、2005年9月、高石氏を代表として、テーマ「育てることの困難」関連の公開研究会の折に参加メンバーを募り、「第2期子育て研究会」が立ち上がりました。子育て支援、母子臨床の領域では実践と研究の長い歴史をもつ本学で、その知の資産を確かに次の世代に引き継いでいきたいという思いがあったのです。第2期の研究会の目的は、知の“地域への還元”という意味で、母親への意識調査を東灘区で行い、6年前との経年変化を見るということと、「子育ての困難」と、母親の（自分の人生や子育て一般についての）意識のあり方との関連性を詳細に探るといことでした。

研究会では、まずメンバーの関心事を持ち寄り、関連する文献研究を行い、調査用紙を作成するところから始めました。個人が単独で企画する調査と異なり、限られた紙数の中で、全体としてまとまりのある、一貫性のある内容に仕上げるまでの過程では、共同研究の楽しさと難しさ、チームワークなど、データ以外からも学ぶことが多かったということです。何よりも、自発的に、知りたいことを誰かと共に探求していくささやかな喜びと、研究を通じて新しい他者（子育ての現場で働く人々や、研究者）と出会う世界の広がり、個人の内的世界にもつぱらエネルギーを注いでしまいがちな心理臨床現場の人間にとって、有難い経験だと言えるでしょう。

第2期子育て研究会では、2006年の夏に「〔第2回〕子育て環境と子どもに対する意識調査」の実施を終え、その成果を2007年2月に報告書として発行した他、さらにデータの分析を進めた一連の研究を、2007年9月に日本心理臨床学会第26回大会にて口頭発表しました。会場は熱心な聴衆で立ち見も出て、この領域に対する学会員の関心の高さが現れていました。その後、11月より第3期として研究会を再開しています。今後は、穂苅氏、新道氏を中心に母親・父親インタビュー調査を、また来年度以降には中里氏を中心に父親の意識調査を検討していく予定です。ご関心のある方は是非、今後の研究にご協力ください。

\*この研究会についてお問い合わせは甲南大学人間科学研究所まで電子メールでお願いいたします。

## これまでの活動

### 公開シンポジウム

#### 第8回「心理療法と超越性

——神話的時間と宗教性をめぐって」

開催日時：2007年7月22日(日) 12:40～17:30

場所：甲南大学5号館1階511教室

シンポジスト：河合 俊雄(京都大学/臨床心理学、ユング心理学)

木村 敏(河合文化教育研究所/精神医学)

上村くにこ(甲南大学/神話論、ジェンダー論)

鎌田 東二(京都造形芸術大学/宗教哲学、神道学)

指定討論：垂谷 茂弘(舞鶴工業高等専門学校/人間論、哲学)

横山 博(甲南大学/精神医学、ユング心理学)

司会：森 茂起(甲南大学/臨床心理学)

企画：横山 博

### 特別企画シンポジウム

#### 「暴力神話と女神」

開催日時：2007年9月22日(土) 13:00～16:30

場所：甲南大学18号館3階講演室

シンポジスト：吉田 敦彦(学習院大学名誉教授/比較神話学)

篠田知和基(広島市立大学/比較文学、

ヨーロッパ神話)

坂田千鶴子(元東邦学園短期大学/比較文学、

日本神話)

依田千百子(摂南大学/比較文学、朝鮮神話)

企画：上村くにこ(甲南大学/神話論、ジェンダー論)

### 研究会

#### 第42回 ギリシア悲劇にみる死・狂気・女性なるもの

開催日時：2007年6月15日(金) 16:30～

講師：上村くにこ(甲南大学/神話論、ジェンダー論)

企画：横山 博

### 研修会

#### 第5回 園芸療法研修会

緑の音を聴いてみませんか？

——植物と触れあうことの楽しさ・大切さを体験しましょう

開催日時：2007年11月30日(金) 14:30～

講師：Hoa Mai 井上 浩恵(寄せ植えアーティスト)

企画：友久 茂子(甲南大学学生相談室/臨床心理学)

## これからの活動

### 出版

#### 叢書「心の危機と臨床の知」

第10巻「心理療法と超越性」(仮題)

編者：横山 博

執筆者：明石 加代(兵庫県こころのケアセンター/

臨床心理学)

鎌田 東二(京都造形芸術大学/宗教哲学、神道学)

木村 敏(河合文化教育研究所/精神医学)

河合 俊雄(京都大学/臨床心理学、ユング心理学)

篠田知和基(広島市立大学/比較文学、

ヨーロッパ神話)

垂谷 茂弘(舞鶴工業高等専門学校/人間論、哲学)

名取 琢自(京都文教大学/臨床心理学、

ユング心理学)

横山 博(甲南大学/精神医学、ユング心理学)

#### 叢書「心の危機と臨床の知」

第11巻「暴力の発生と連鎖」(仮題)

編者：上村くにこ

執筆者：饗庭千代子(甲南大学国際言語文化センター/神話論、

フランス文学)

上村くにこ(甲南大学/神話論、ジェンダー論)

北原 恵(甲南大学/表象文化論、美術史、

ジェンダー論)

篠田知和基(広島市立大学/比較文学、ヨーロッパ神話)

千葉 征慶(メンズサポートルーム/臨床心理士、

産業カウンセラー)

濱田 智崇(甲南大学人間科学研究所/臨床心理学)

藤岡 淳子(大阪大学/非行臨床心理学)

港道 隆(甲南大学/哲学)

森 達也(映画監督)

2008年2月末刊行予定

### その他の企画

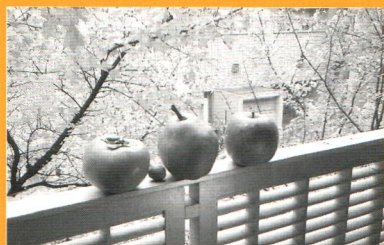
#### 第5回心理臨床ワークショップ

開催日：2008年2～3月

講師：未定

対象：臨床心理士もしくは心理臨床業務に携わる方

発行年月日：2007年12月7日



### 編集後記

今年の季節の変わり目は、ある日突然やってくるが多かったように思います。おかげで、KIHSのスタッフの間では風邪が大はやり。

あっちでゲホゴホ。こっちでハクション！流行の先取りをしてみました。

KIHSは時代の先取りが出来るよう、来年度から始まる新規事業の準備を進めています。